

# 艦隊 勤務

Belfast Diary.



ADULT  
R-18  
ONLY

艦隊  
勤務



ADULT  
R-18  
ONLY



勤艦  
務隊



失礼します

ガチャ

入れ……ッ

コン  
コン  
コン



そうか……

メイドの  
ヘルファストと  
申します

本日付けて  
着任いたしました

やっと来たか……



君の建造には  
なかなか  
苦労させられたよ……



……はい  
……申し訳ありません

ガッ



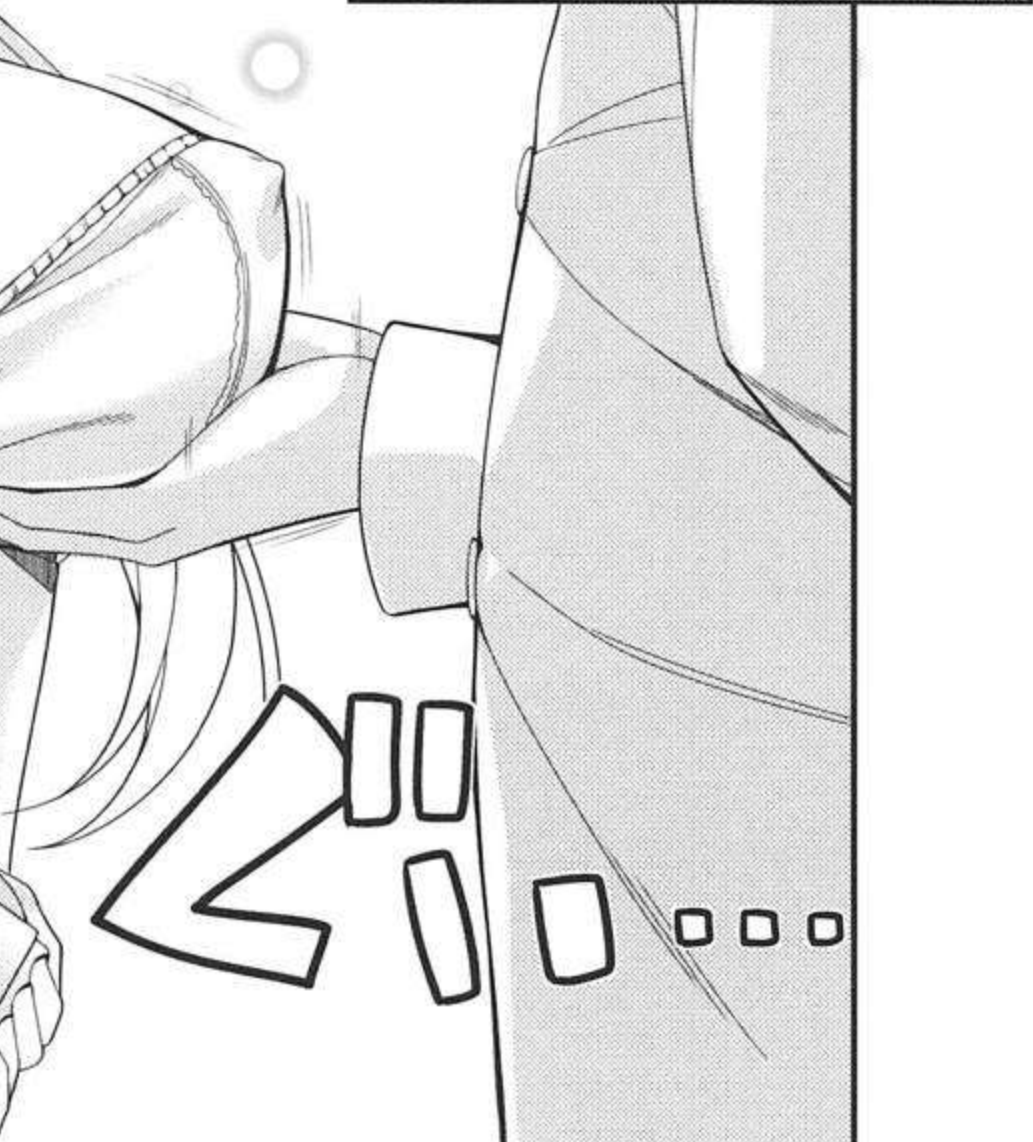
メイドと聞こえたが...

さて...君はいつたい

どれほどのものだといふかね...?

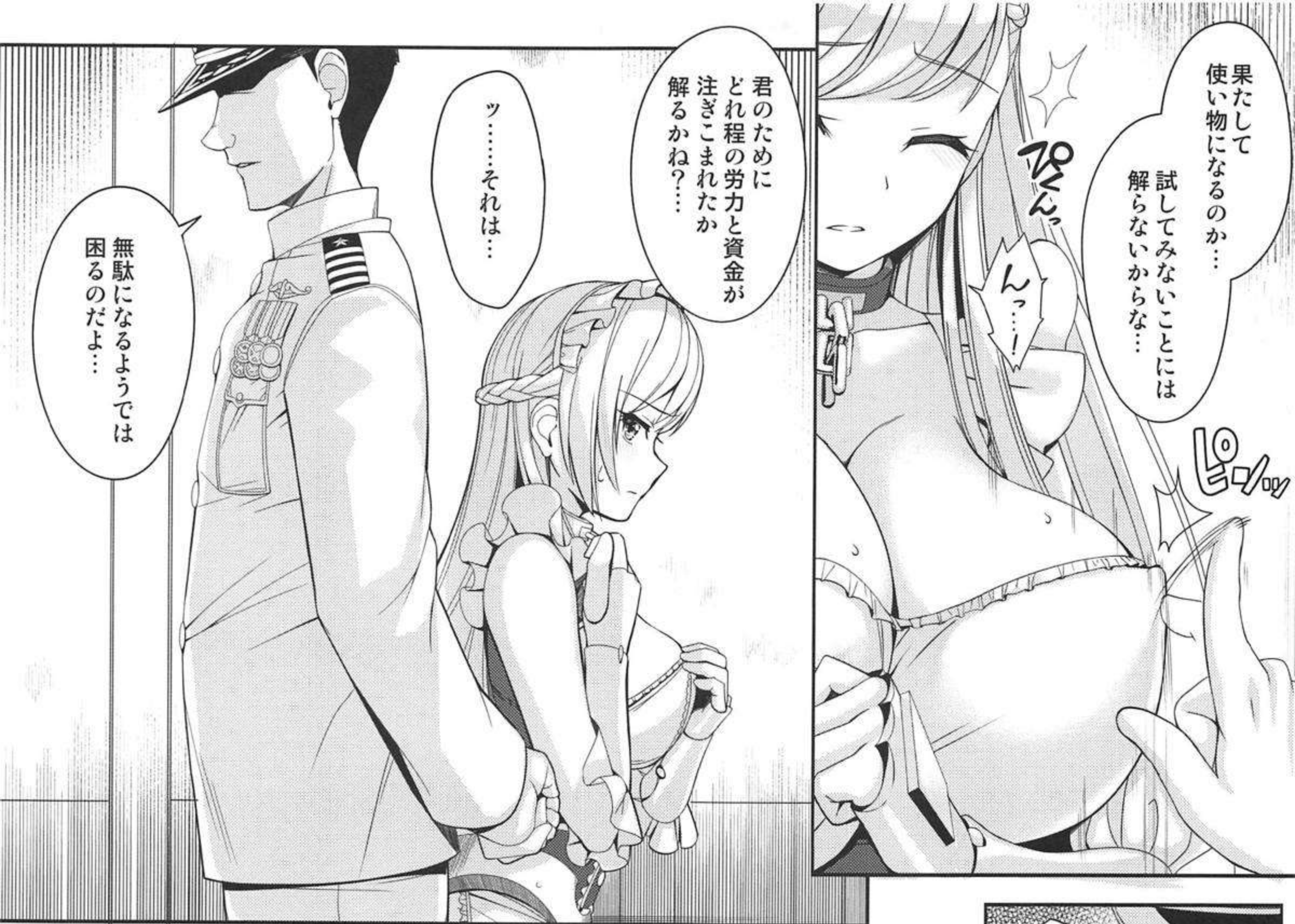
ッ...!!  
ゴッ

用務のほうにはまだ少々不慣れでございますが最善をつくしますので何卒ご容赦くださいませ...



...ご主人様にご奉仕する身とはいえ不用意に触ることは自重くださいませ...





果たして  
使い物になるのか...

試してみないことには  
解らないからな...

ツツツ

んっ!

君のために  
どれ程の労力と資金が  
注ぎこまれたか  
解るかね?...

ツ.....それは...

無駄になるようでは  
困るのだよ...



君には  
それなりの仕事を...

してもらわなくてはね...

ツツツ!?

△ギョ









どれだけの  
資金や饅頭が  
費やされたか

君の建造には  
苦勞させられたよ…

来たか…!

!?



この子はッ…!?

私はメイドのベルファストです。  
よろしくお願ひします。

ええと…  
ここはご主人様のお部屋ですか？



私の時と少々雰囲気  
違うような…

…これは  
かくかくしかじかで  
ちよつと複雑な  
事情にや…

まさか…



ベルファストは  
ご主人様が  
考えていることは  
手に取るように  
わかりますからねッ!

エェッ!?

不用意に女性を触るも  
めっ…です!

いいですか?ご主人様  
お仕事をサボっては  
めっ!ですよ?

めっ!

あの子のことなら  
だいじょうぶにや…

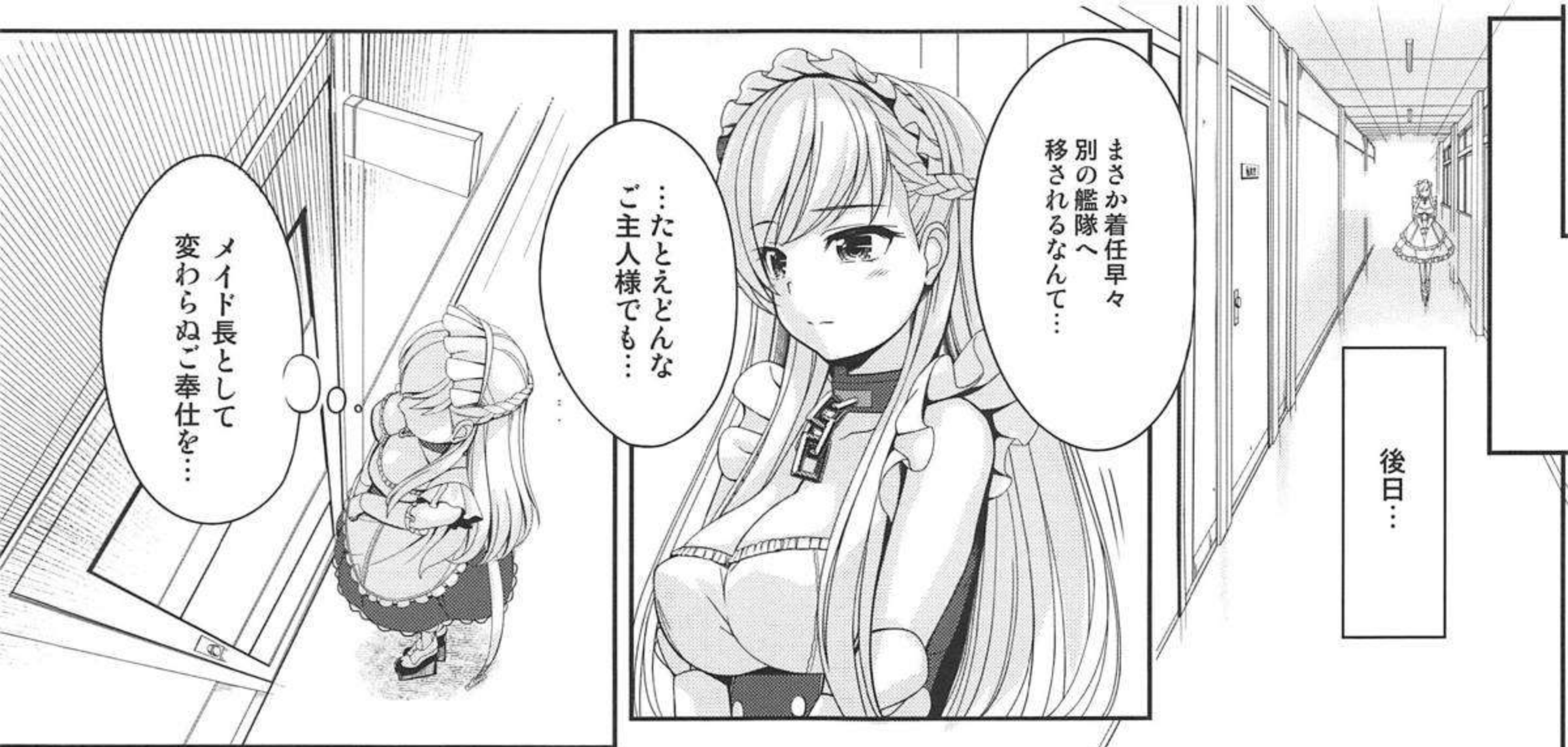


…さて君の性能は  
どれ程なのか…

…早速頼むよ…?

はい!  
よろしくお願ひします

では早速…  
ご主人様の矯正も  
メイドの務めですから



メイド長として  
変わらぬご奉仕を…

…たとえどんな  
ご主人様でも…

まさか着任早々  
別の艦隊へ  
移されるなんて…

後日…



カチャ

コン  
コン



♡♡♡

新しい任務が…  
…通達されま…

失礼しますご主人様…

あぁん♡♡  
指揮官様った♡♡♡  
うふふ…♡



!?

ツ：大変失礼  
いたしました…

部屋を  
間違えました…

？

あッ…!?

うりり…  
ダメですよ  
指揮官様

あんツ！  
指揮官様ツ！

…ねえツ！  
ちよつとまって!!

この御方が…

いいところに  
来てくれて  
助かったよ…  
ベルファスト…

ご主人様…？

ベルファスト？



指揮官なら少しは皆の功をねぎらって欲しいものだがな...

そんなに敵を鏖殺したいのか？  
…皆連戦で疲れているのだ…

みんな新しい任務だッ！

ほらみんなもう悪ふざけはおしましたよ！

装備を整えて出撃の準備を！  
旗艦は加賀に…

うう…だけどさっきのようなことは…



それでしたら委託の手配を…お嬢様方には演習を…

…ツ  
そうだね  
それで…



指揮官様がよろしければ実戦でも構いませんわよ？

それでしたら…大鳳と指揮官様の二人きりで演習を願いますわ

さあ…先程の続きを…

ああッ…いや…それは…ッ！

ご主人様？

演習でしたら  
ロイヤルメイド隊が  
ご主人様に代わって  
いつでもお相手  
いたしますが：

皆様大変  
お疲れのようなので：  
しばらく寮舎にて  
休暇をお与えになつては  
いかがでしょうか？

そうですね！  
だから大鳳は指揮官様に  
癒していただかないと：

寮舎の設備は十分に  
整っておりますので  
ご主人様の手を  
煩わせる必要は：

あらそうかしら...？  
なんだか物足りない  
気がしますわよ...？  
せっかくなので新しい設備を  
指揮官様と一緒に：

ちよっと...  
二人とも...

失礼します...  
新しい任務が  
通達されま：

任務なら委託に...！

...申し訳  
ございません

他のお嬢様方は皆様  
お出かけになられて  
おりますので：

出撃をお願い  
いたします...

そんな...

はあ…  
やっと落ち着いた…

助かったよ  
ヘルファスト…

いつも  
こうなんだ…

ご主人様に  
ご奉仕するのが  
メイドの務めです…

しかし  
ご主人様…

優秀な  
指揮官になるには  
まず自らに自信を  
持つことから  
始まります…

お嬢様方に  
振り回されて  
いるようでは  
任務に支障を  
きたすことも…

指揮官として  
みんなを率いている  
つもりなんだけど  
彼女達が相手だと  
どうしても僕は  
役不足みたいで…

ご主人様は  
指揮官なのです  
遠慮なさらず  
ご命令くださいませ

今はお嬢様方の代わりに  
私がお相手いたします

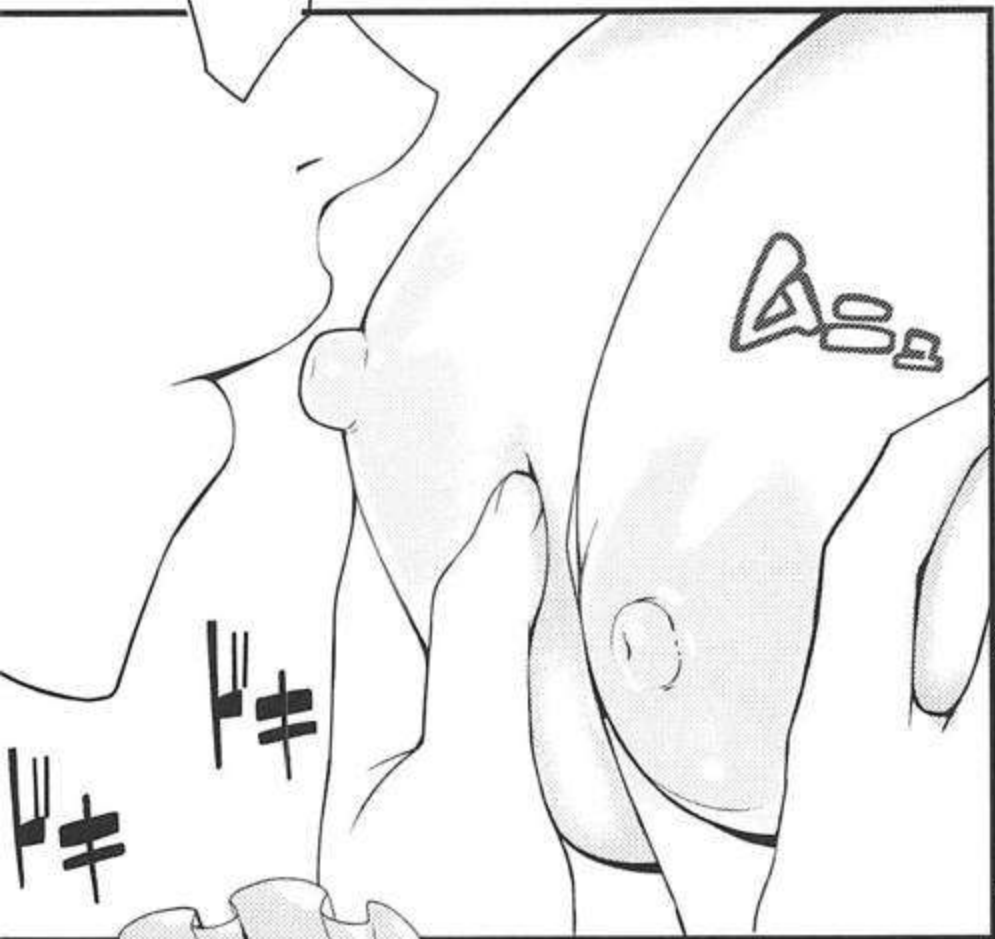
これは  
演習でございます

艦隊に  
着任したばかりで  
少々不慣れでは  
ございますが

いつも通りお嬢様方と  
なさっているように…

演習…？

えーっと  
それじゃあ…









...そろそろ  
良い頃でしょう...

ええッ!  
もう終わり?  
...まだココが  
収まらないよ...

ふふ...

ご安心くださいませ  
指揮官様...

ズッ



続きは「ちらで」...

お相手いたしますね...

おほおほ

えっと…

こちらで  
ございます  
指揮官様

その際には  
お気をつけ  
下さいませ

こちらを具合を  
確かめながら…

時にはこちらも  
優しく愛でて  
下さいませ

あつ…は  
お上手でござ  
います  
そのままの中へ…

…うっ…

あつ…  
…うん

あつ…!!  
入る…よ?

そのまま奥まで  
お入りくださいませ…

あつ…



これから  
すこしずつ慣れて  
行きましようね!



…ねえベルファスト  
今日もアレのこと  
教えてくれるかな？

うふふ…

お勉強に熱心で  
ございますね…  
ご主人様の  
意のままに…

艦隊に着任早々  
一時はどうなることかと  
思いましたが…

それでは  
準備いたしますので  
それまでは…

ベルファストの乳を  
ご賞味くださいませ…  
お口に合いますでしょうか？

優秀な指揮官様に  
なられるために  
もつとご主人様に  
ご奉仕いたしますので…

ちゅーっ

ゴキョウ

んっ

はあ

あッ！

はあ

お上手ですよ  
ご主人様♪

ご主人様も  
いずれはきつと…

ちゅーっ

立派な指揮官様に  
なってくださいませ♪

指揮官は重苦しい空気に耐えられず頭を抱えて机に座っていた。部屋には赤城、大鳳、愛宕の三人の艦戦少女が机を挟んでトライアングル状に立っており、お互いを睨み、罵り、誹謗中傷の応酬を繰り返していた。空中に見えない火花が炸裂する中を見つめ、少年の彼は経験も浅く、女性との関係もほとんどないため、色気を振りまき性的に襲ってくる彼女達に振り回されていた。

（どうしてこうなった）

毎回頭を抱えていて悩んでいるが、問いに答える者はいなかった。空気を讀んだのか、部屋に入ってくる他の艦戦少女は皆無だった、そういえばいつもはうるさい駆逐艦達も今日は見てない。

自然とでてるため息をつきながら、今回の騒動を思い出す。赤城に次の任務を指示するために呼んだことが始まりだった。

空母赤城 指揮官「ONE勢は多数いるが彼女は独り占めが強く、さらに嫉妬深く攻撃的。いわゆるヤンデレであり『重桜のやべー奴』と呼ばれていることを知っている。指揮官様、ついに赤城の愛を受け入れてくれますか？」

（そんなつもりで呼んだ覚えはまったくない）

彼女が意気揚々と扉を開けるが、部屋に入る直前に足が止まった。椅子に座っている私の頭の上に、大きな大きなおっぱいが占拠しているのが見えたからだ。『あら、何しにきたの害虫？用がないなら早く帰りなさい、指揮官様は私と忙しいのよ』

（呼んだ覚えすらない）

着物に入り切らない豊かな乳房を揺らしながら、持ち主が甘ったるい声で赤城を挑発する。『…大鳳！』

最近、鎮守府に着任した同じ重桜、同じ空母の大鳳。鎮守府最大の胸囲を誇る大きな胸、一説にはメートルサイズとも言われている。赤城は愛が重いヤンデレが、彼女は自分が指揮官の恋人だと信じきっているメンヘラ、そして自分以外を排除しようとするヤンデレを備えた2人目の『重桜のやべー奴』である。

『その下品な乳は仕舞いなさい』

赤城は貧乳どころか巨乳に位置づけられるくらい大きい、メートル超えの大鳳相手では相手にならなかった。

挑発に我慢できずお互いに手を出して髪や乳を掴みながらキャットファイトに発展する二人。頭上で行われる女の喧嘩に止めようとするが、こちらの声は一切耳に入らず、机の上でおろおろと戸惑うしかなかった。

二人を置いて、お姉さんとい、い、ことしましょう」

急に耳元に熱い吐息のこもった囁きをされ、驚きながら声を掛けて来た方を見ると、いつの間にか入ってきた愛宕が微笑んでいた。

「待ちなさい、この泥棒猫」

「あなたも見かけによらず、油断なりませんわね」

喧嘩をしていた二人が手を止めて、急に入ってきたライバルを牽制する。重巡愛宕、二人と違うタイプながら、頻りに指揮官を誘惑する。先程の2人ほどの精神的なヤバさはないが、ところかまわず指揮官を誘惑する別の意味で『重桜のやべー奴』に数えられていた。

ロイヤル所属のメイド長ベルファストは、悠然と部屋に入り、指揮官の顔を見るとスカートの端を軽く上げて会釈をする。

「ここは私におまかせを、ロイヤルメイド隊」

「はい！」

ベルファストの掛け声と共に、ロイヤルメイド隊が現れて睨み合っていた三人に投網を投げて力づくで捕縛した。

お互いを警戒していた三人はたいした抵抗もできず、グルグルと縄で縛られ連行されていく。『お姉さん、離しなさい！』

「お姉さんは緊縛プレイは好きじゃないわ」

「あの女、邪魔ですわ」

赤城と愛宕が縄から逃れようと抵抗をする中、大鳳はベルファストを睨みつける。だがベルファストは単艦でも力があるうえに、メイド隊の長として君臨されており、いかに大鳳でも手を出すことはできなかった。恨めしそうに彼女を見てみると、あることを思いつく。

「お待ち下さい、指揮官様、大鳳が頭の中からあの女を消してみせますわ」

自分の発想に笑顔を浮かべ、これから起こすことを考えながら身体を熱くしていた。

自室に戻った指揮官は着替えをする気力もなく、そのままベッドに倒れ込んだ。いままでも赤城と愛宕の正妻争いはひどかったが、大鳳の登場によりギリギリの均衡が崩れてひどくなった。高雄や加賀にも相談はしたが、大鳳を止める存在がない以上、彼女達にはどうすることもできなかった。

「いまはベルがいるけど、指揮官としてどうにかしないと」

天井を見ながら考えていたが、日頃の疲れから意思とは関係なくまぶたがゆっくり下がり眠ってしまった。

「はあ、はあ、はあ」

「う、うあああ」

反射的に逃げたそうとしたが、上半身がベッドに縛られており、さらに腰の上に大鳳が跨っている、身体を動かすこともできなかった。

「おはようございませ指揮官様♡」

大鳳は上体を起こすと腰をくねらせる。『大変かわいい寝顔で、大鳳は襲うのを我慢するのが大変でしたわ』

大鳳の姿が見えるようになって、彼はあることに気づいた。

「そ、その服はベルファストの」

胸の形を強調し胸元が見える開いたエプロンドレス、頭のホワイトブリムや鉄の首輪、白のガーターベルト、間違いなかった、いつも見慣れているベルファストのメイド服を大鳳が着ていた。

「お気づきになりました、司令官様の大好きなメイド服ですよ」

「部屋のカーキ、ですか？うふふ、ご安心ください。大鳳はちゃんと用意してありますから」  
彼女は胸の谷間に指を入れると、そのまま胸の形に沿ってずらし、服を引っ掛けて一気に下ろした。  
タプタプン

鎮守府一の大きな乳房は、窮屈な服から解放されたこと喜ぶように大きく左右に揺れ、  
谷間に挟まっていた鍵が落ちてきた。

大鳳がいつ鍵を入手したのか気になったが、それ以上にその大きな胸に彼の目は釘付けになった。  
まさに双丘、いや山というべき乳房はその大きさと重さから、重力に引張られた垂れ気味であった。  
しかしその中心にある色鮮やかなピンク色の乳輪と乳首は、重力に逆らい上を向いて尖っていた。

母親以外では初めて、それも他では見ることもない巨大な乳房に彼の目は釘付けになった。  
さすがの大鳳も愛しの指揮官に胸をじっと見られるが恥ずかしいのかモジモジと身体をくねらすと、  
乳房もそれにつられ動き、まるで生き物のように揺れる。

それを見ていた指揮官のズボンの股間が盛り上がる。  
まだ子供とはいえずは男性である以上、生理的な反応するのは当然だった。

「はあっ♡この火照り、そしてこのときめき」

大鳳は自分の股間を押し上げる温もりと身体を熱くする。

「指揮官様の中から、あの虫を排除してあげますわくえっ？」

ドン！ガツン！

堪えきれなくなった大鳳が襲いかかろうとした時、爆発音と共に部屋が揺れる。

吹き飛ばされたドアが背後から打つかり、大鳳は声を上げることでもできず意識を失った。

「お待たせいたしました」主人様

「ベルフェスト……」  
砲撃によってドアを吹き飛ばしたベルファストとロイヤルメイド隊が早足で部屋に入ってきたが、  
ベッドと大鳳、さらにドアに挟まれた指揮官は素直に喜んだらいいのかわからず、硬い笑顔を浮かべて出迎えた。

急報を受け駆けつけたベルファストはいつものメイド服に着替える時間がなく、白の薄いネグリジエに、  
同じく白のオーバーニーソックスとガーターベルトの組み合わせだった。

ネグリジエは布が薄く、肌やおへそ、白いショーツが透けて見えており、寝間着といえぬ扇情的な格好であった。

緊急時とはいえ、指揮官に見られることは恥ずかしさを覚え、表情は冷静を装っていたが頬が紅潮していた。  
助けられた指揮官は、拘束とドアと大鳳から解放され、今はベッドに座りながらコップに入った水を飲んでいて、  
二人は気絶したままの大鳳と、あの後に駆けつけてきて文句を言っていた赤城と愛宕が、  
メイド隊に連れて行かれるのを見ながら話をしていた。

「助けてくれてありがとう」

「主人の危機を救うのはメイドとして当然のことです」

「ドアが飛んできたのは驚いたよ」

「驚かせてすみません、あの時はアレが最善の方法でした。危険かと思いましたが、」

「ご主人様は大鳳なら守ってくれると信じてました」  
たしかに身を挺して大鳳は指揮官を守った、ベルファストが言っているのと少し違うかもしれない気はするが、

「大鳳をどうするの？」

「しばらくはアルバコアが監視として一緒に行動します」

「それは、ちょっと、可愛そうな気もする」

アルバコアに怯える大鳳を知っているだけに、少しだけ気の毒になる。

「ドアは壊してしまいましたが、外にメイド隊が交代で見張りますので、ご安心してお休み下さい」

「さて、どうしましょうか」

会話が落ち着くと、ベルフェストはこの後のことでも悩んだ。

新しいドアの発注もそうだが、大鳳、赤城、愛宕の問題をいかに加減なんとかしないといけない。

お仕置ぐらいいで彼女達が懲りるわけはなく、いままで変わらず解決にはならない。

一旦部屋に戻ろうとした時に、指揮官の膨らんだ股間を見て立ち止まった。

大鳳のおっぱいで勃起したベニスと、ドア騒ぎで収まったが、

今度はベルファストの魅力的な寝巻きを見て再び膨らんでいた。

ベルファストはしばし考え、指揮官に聞いた。

「堂々とした態度で接すれば、彼女達も大人しくなるでしょう」

「それはそうだろうか、その苦手というか、怖いというか」

「ご主人様はたしか、女性経験はありませんよね？」

「えっ？え、えいと、その、はい」

想定どおりの答えを聞き、ベルファストは指揮官の正面でしゃがむと、ズボンの上から膨らみをやさしく撫でた。

「な、なに？」「一度経験すれば、女性が苦手なものも克服できるでしょう」

「いや、その理屈はおかし、や、やめて」

驚く指揮官を無視して、手早くズボンとパンツを下ろす。

ベルファストの眼の前に、また少年サイズとはいえずは立派に反り返ったベニスがビクビクと動いていた。

まだ皮を剥けていないそれを見たベルファストは愛おしく感じた。

「私の姿を見てこうなられたのですね、嬉しい」  
指揮官はベニスを視られたことに顔を真っ赤にして戸惑っていると、それを見たベルファストは微笑みながら言った。

「私もご主人様から他の女の匂いがするの、少々不愉快ですからお気になさらず」

ベニスは髪が当たらないように左手で髪をかき上げると、

右手で筆を優しく掴み口元に持っていきと亀頭にチュッとキスをする。

そのままチュ、チュと鈴口を何度も吸い始める。

今まで感じたことのない、むしろかゆい感覚に指揮官は戸惑うしかなかった。

ベルファストは顔を動かして舌で亀頭をきれいに舐めた後、口を開けると亀頭をパクリとくわえ込む。

初めて味わう口内はとて熱く湿っており、ベニスを包み込む口淫の心地よさにベニスはビクビクと脈をうつ。

「はむっ、んっ、ちゅる」

奉仕すると下腹部がじんわりと熱くなるのを感じながら、ベルファストはフェラチオを続けた

唇だけでなく舌を陰茎にからめながら、前後運動でベニス全体を刺激させながら、

ベニスを掴んでいた右手が根本を優しく愛撫する。

「う、うわあ、な、なにこれ」

ベルファストのフェラチオ奉仕に、指揮官の腰は自然とガクガクと動いた。

「だ、だめ、出る」

ベルファストはそのまま出してよいとベニスを啜えながら、コクリと頭を下げて訴えた。

「ぐらうらう」

それが合図となり、ベニスから精子が口内に出される。

ビュル、ビュル、ビュル

舌に感じるドロドロとした青臭い苦み、口から鼻を通る独特の匂いがするが、ベルファストは口内でそれを受け止める。

勢いは止まらず、射精された精液はベルファストの口から溢れそうになるが、

一滴もこぼさないように躊躇することなく、こくこくと喉を鳴らして飲んでいく。

「うっ、うらん」

すべて飲み切ると、射精直後の放心状態の指揮官にパンツとズボンを履かせてベルファストは立ち上がる。

「それではお休み下さい、ご主人様」

「う、うん」  
指揮官はまだはつきりしない頭で、何度もうなずいた。

ベルファストは笑顔で一礼すると、部屋から出ていった。

残された指揮官は、ベルファストにフェラチオされたことが頭から離れず眠れない夜を過ごした。

部屋に戻ったベルファストはドアに鍵を掛けると、ショーツに手で触る。

指先から伝わる湿りに、濡れている事を自覚すると手はショーツの中に入り指先で臍口をなぞる。

「やっぱ、濡れている」

空いた手でブラの上から形のよい乳房をやさしく揉み、硬くしこった乳首をつまむ。

「あっ」

布地からでは刺激が弱いので、今度はやや強く摘む。

「んっ、んん、はあ」

なぞるだけでは物足りなくなり臍に指を入れる。

肉壁を指でかき回すと甘い快感に身体がビクッと反応し、ヌルヌルとした愛液がショーツに染みを作る。

「はあ、はあ、ご主人様」

ベッドに倒れ込みながら、ベルフェストも今日の出来事を忘れられず、興奮する身体を慰めながら眠れない夜を過ごした。

\* ア ト ガ キ \*

はじめまして!こんにちは!  
野村輝弥と申します。

この度は本作品をお手に取っていただきまして  
誠にありがとうございます

アズレン本は初めてでしたがいかがでしたでしょうか?  
獣と軍事聞いて描かずにはられませんのです。

お胸の大きなお船さんたちがたくさんいらっしゃるので  
描いていてとても楽しかったです。

まだまだ新しいお船さん達が出てきてくれることを期待しつつ  
機会があればまた描きたいと思いますので  
よろしければまた見てやってくださいませ

それではまた別の作品でお会いしましょう～  
でわでわ

野村輝弥

始めまして、さんますと申します。  
サークル活動はしていませんが、  
たまにネットで二次創作小説を載せています。  
今回は野村輝弥さんのご厚意で、同人誌に載せてもらうことになりました。  
アズールレーンはかわいいキャラが多くてよいですね、  
特に服のデザインに関してはバラエティ豊かで、  
和服のアレンジも素敵だと思います。  
ベルフェストはもちろん好きなキャラで、主力として使っております。  
二次創作も増えてきましたが、  
TVアニメも放送するので今年は盛り上がると思い、いまから楽しみです。



# 艦隊勤務

艦隊勤務 Belfast diary

発行日：2019.04.29

発行者：野村輝弥

印刷所：小山オフセット印刷所 (同人誌印刷.com)

サークル：Chocolate Pepper. / 童話建設.

@nomu\_tea

<http://chocolate-pepper.sakura.ne.jp/>

勤艦  
務隊

Belfast Diary.